

遠近の里人これ溪崎の宮はまうでみ宮居の砂成
とて蛇まひの禍を除く守りとり顕然神靈
衆人の知もよ也毎年その祭礼此故事をせしめく神
輿の左右は木製の鷹二もやうと振くはるもにさる
此のやうき傳記よりいふとも今見るもの神靈
うごひあさるを群衆く堵人の仰き尊い事りく
まてしきぬ鷹につくさる由緒の一説といへる趣の
神といふを信濃國を云く遍く人の知もよなれども
かる事りといふもさるといふれう未とも云がかる事
此事近日君侯は重名とてあはれく或人のいふ事を